

2018年度 国内光ケーブル需要見通し

2018年3月28日
調査統計専門委員会

調査統計専門委員会では、2018年度の国内光ケーブル需要見通しについて、2017年度見込みを含めて取りまとめた。

1. 概要

公衆通信部門は、NTT およびその他通信事業者における国内光ネットワークの設備投資の効率化やコスト削減により2013年度以降の減少傾向が継続すると見込み、2017年度も前年度比で減、2018年度もその傾向は維持されると予測した。

公共関連部門については、鉄道向けの設備更新需要が堅調であり、2017年度は前年度比で大幅増となり2018年度も横ばいを見込んでいる。

一般民需部門においても、4K・8Kなどの高度サービス対応を目的としたCATV事業者の幹線光化投資が活発に進められており、2017年度は前年度比で大幅増、2018年度もピークは越えるものの需要は継続すると予測した。

2. 前提条件と主な参考指標

(1) マクロ経済指標

メタル（銅およびアルミ）電線に同じ。

(2) NTT2018年3月期第3四半期決算

(NTT持株、NTT東日本、NTT西日本、NTTコミュニケーションズ)

(3) NTT平成29年度事業計画の許可申請

(4) NTT平成30年度事業計画の許可申請

(5) 総務省「ケーブルビジョン2020+」2017年5月

(6) 総務省「総務省重点施策2018」2017年8月

(7) 総務省「ケーブルテレビの現状」2018年2月

(8) 総務省「ブロードバンドサービス等の契約数の推移」

3. 需要見通し結果

部門	コメント
公衆通信	2017年度は、通信事業者の設備投資効率化やコスト削減により、2016年度比減となると見込まれる。 2018年度も、NTTグループの設備投資の効率化傾向は維持されると見て、2017年度見込み比微減と予測した。
公共関連	2017年度は、東京五輪、鉄道関連の光化投資が堅調で、2016年度比増と見込まれる。 2018年度は、引き続き東京五輪、鉄道関連の光化投資が期待できることから、2017年度見込み比横ばいと予測した。
一般民需	2017年度は、4K・8K対応化など通信高度化のためメタルから光への更新および新規投資が堅調で、2016年度比増と見込まれる。 2018年度は、4K・8K対応需要のピークは越えるとして、2017年度見込み比横ばいと予測した。
国内需要合計	2017年度は、一般民需部門の持ち上げにより2016年度比増と見込まれる。 2018年度は、公衆通信部門の不振は継続するものの、公共関連、一般民需部門はほぼ横ばいと予測した。

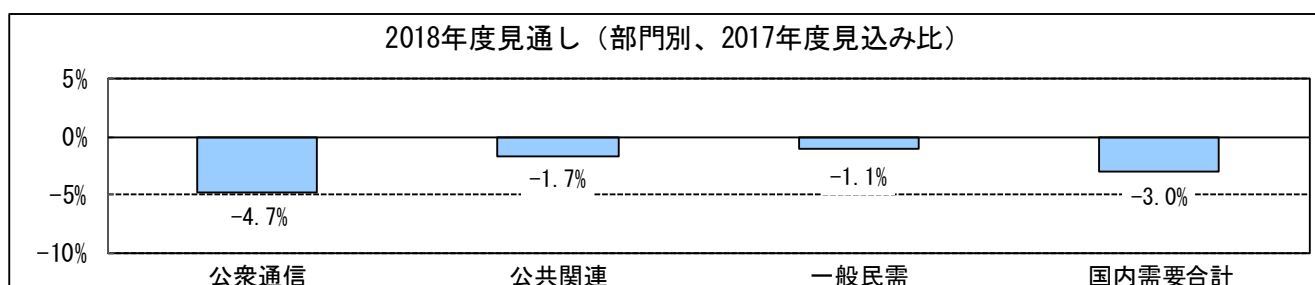
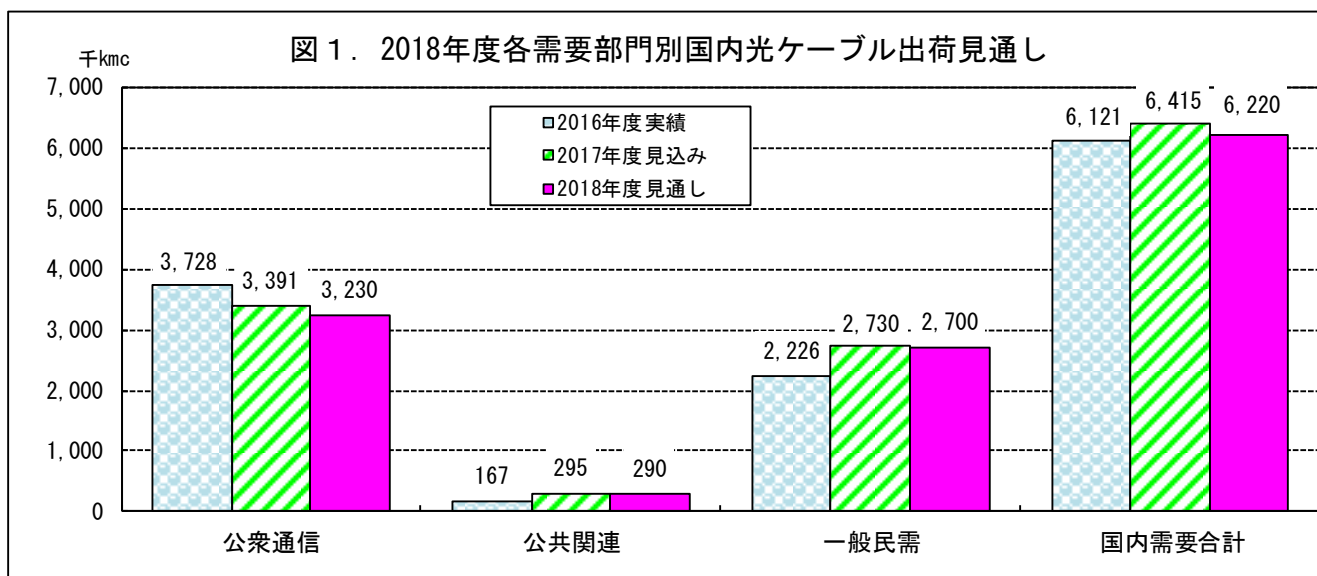


表1. 2018年度国内光ケーブル需要見通し

(千kmc)

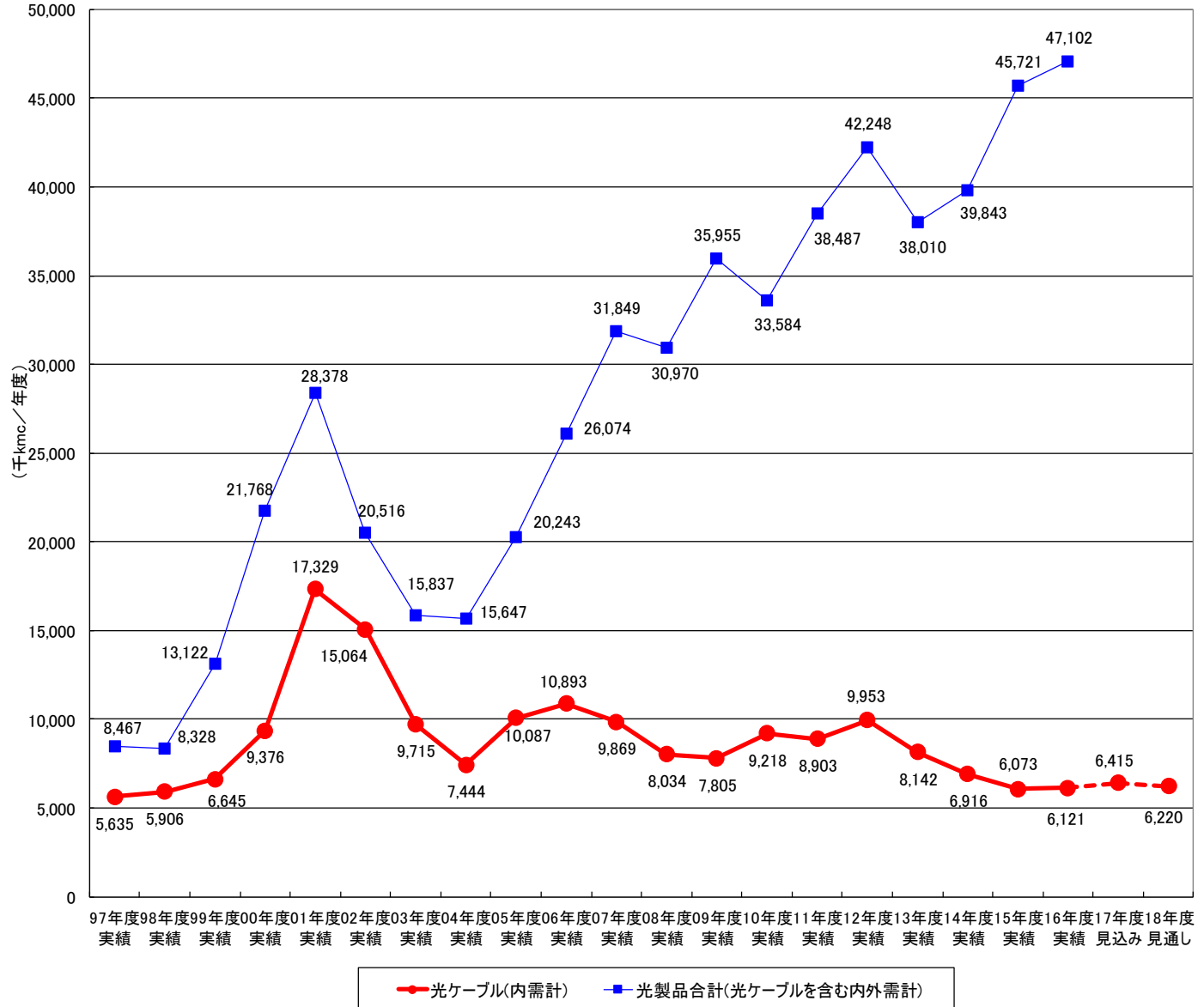
	2016年度実績	2017年度見込み	17/16伸び率	2018年度見通し	18/17伸び率
公衆通信	3,728	3,391	-9.0%	3,230	-4.7%
公共関連	167	295	76.6%	290	-1.7%
一般民需	2,226	2,730	22.6%	2,700	-1.1%
国内需要合計	6,121	6,415	4.8%	6,220	-3.0%

図2. 国内光ケーブル需要見通し

単位:千kmc/年度

部門	2008年度 実績	2009年度 実績	2010年度 実績	2011年度 実績	2012年度 実績	2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 見込み	17/16 伸び率	2018年度 見通し	18/17 伸び率
公衆通信	6,229	5,880	6,208	7,571	7,751	6,515	5,208	4,346	3,728	3,391	-9.0%	3,230	-4.7%
公共関連	138	168	175	214	186	230	145	138	167	295	76.6%	290	-1.7%
一般民需	1,667	1,757	2,835	1,118	2,015	1,397	1,563	1,589	2,226	2,730	22.6%	2,700	-1.1%
合計	8,034	7,805	9,218	8,903	9,953	8,142	6,916	6,073	6,121	6,415	4.8%	6,220	-3.0%

注: 四捨五入のため計が合わない場合がある。



(注) 光製品合計の17年度見込み、18年度見通しは作成していない。